

令和4年度 合志市社協「スペースあれんが」 事業所職員における自己評価結果

公表： 令和5年3月31日

事業所名： 合志市社協「スペースあれんが」

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6	6	5	<ul style="list-style-type: none"> ・建物は指定基準以上の面積。今ある環境のなかで、子どもの特性、活動プログラム、感染管理の観点から集団づくりや部屋の用途について適宜検討している。 ・にじの部屋(別棟の建物)の活用、屋外活動(畑や屋外の敷地など)の導入、日々の整理整頓により、療育の向上やスペース確保に努めている。 ・パニック等によるクールダウンの対応について、専用の部屋はないが、適宜場所を確保して個別対応を行っている。
	2	職員の配置数は適切であるか	8	5	4	<ul style="list-style-type: none"> ・指定基準に準じた職員配置。保育士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、公認心理師、管理栄養士等の有資格者を配置している。 ・長期休暇時はより手厚い支援を行うために、臨時的に職員の加配を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	12	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的トイレの数や広さなど、ハード面の課題はあるものの、子どもへ負担がかからないよう、状況に応じて適宜対応している。 ・環境整備について、利用児童の障がい特性や状況を踏まえ、今後もバリアフリー化、構造化等の視覚支援について適宜検討し、子どもたちにとって過ごしやすい生活空間となることを目指していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6	9	2	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の事前/事後ミーティング、定例職員ミーティングにて、業務内容やその改善に関する話し合いを行っている。 ・①療育環境、②安全管理、③美化感染、④給食の4つのチームに分かれて業務改善に取り組んでいる。その内容の実現に向けて、進捗状況を可視化するなどのタスク管理に努めている。 ・全職員が共通認識をもってPDCAサイクルに参画することが今後の課題であり、そのための取り組みを検討していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	15	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回、保護者アンケートの実施のほか、意見箱を設置するなど、保護者の要望把握に努めている。 ・いただいた意見は職員ミーティングや回覧等で情報共有し、要望の具現化や業務改善に取り組んでいる。 ・例年、アンケート結果は保護者説明会にて説明し、その解決に向けた取り組みに関して伝達している(今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者説明会は未実施。インターネット上での公開について周知を図った)。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	11	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・合志市社会福祉協議会ホームページ内に公表している。また、その旨を保護者にも周知している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	11	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、第三者評価を受審し、評価結果は熊本県社会福祉課ホームページに公表済み。職員間での評価結果の共有、今後の課題の検討と目標設定など、サービスの質の向上や改善に向けた取り組みを継続していく。

	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	16	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画を策定し、毎月の職員研修のほか、全職員が均等に外部研修にも参加できるよう、勤務調整を行っている。 ・次年度は深めていきたいテーマを選定し、事業所内勉強会の充実化に取り組み、専門性の向上に努めていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	15	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議や児童・家族面談によりニーズや課題を把握したうえで、担当職員(担当者、機能訓練、児童発達支援管理責任者)の協議の元、個別支援計画を作成している。また、その計画立案の前後に個別支援会議を開催し、内容の検討とともに不参加の職員への周知に努めている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	9	5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・主に観察法に基づいてアセスメントを行っている。各職員の主観が入りやすいこともあり、観察する行動や場面をあらかじめ決めたり、また複数の職員で観察することで、より客観的なアセスメントができるよう努めている。 ・事業所独自のアセスメントシートについて、その内容や活用方法に関する検討を行っており、今後も継続する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	15	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月担当者が月間活動の概案を作成し、それに基づいて当日のリーダーが活動プログラムを考案している。子ども一人ひとりの障害特性や個別支援課題について職員間で共有し、より適切な支援につながるよう全体で活動プログラムの立案に参画している。 ・今後も子どもの特性に応じた活動プログラムを設定し、支援の視点(ねらいや目標、配慮点)の明確化を図っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	13	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽、運動、制作」の3つのメインの活動のほか、園芸、個別課題(学習、リラクゼーション)など多岐にわたる活動プログラムを展開している。 ・また、感染予防の上、季節行事や地域行事への参加、ボランティアとの交流など、地域交流の機会を取り入れているほか、今年度はポッチャの寄贈を受け、パラスポーツの推進に取り組んだ。 ・歯科衛生士による歯科教室(歯みがき指導)、ストリートダンス教室など、外部講師による多彩な活動を継続している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	13	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、感染予防を考慮しながら、利用者数、活動スペース、活動時間に応じて活動プログラムの立案を行った。 ・休校日には季節行事や地域行事を多く取り入れている。休校日は打合せの時間確保が困難だが、時間を有効活用してより個別支援課題に応じた療育に取り組めるよう、平日の個別支援ミーティングの強化に取り組んでいる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	15	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動をメインにしながらも、適宜各々の支援課題に取り組む個別活動の時間を設定するなど、個別支援計画の達成に向けた支援の充実化に取り組んでいる。 ・個別支援計画に記載されている課題について、職員集団で共通認識を持って支援にあたるよう、ミーティングの改善やプログラム立案を行っている。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	17	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの来所前に職員ミーティングを行い、活動内容や職員配置、送迎、子どもの前回利用時の様子等の確認を行っている。 ・今年度は更なる質の向上のほか、議論を通じた職員集団づくりを目的に、支援前の準備やミーティングの強化に取り組み、今後も継続する。 	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	17	0	0	・支援終了後にも職員ミーティングを行い、ケース記録を参照しながら療育内容や子どもの様子、ヒヤリハット等の振り返りを行っている。また、それらに加えて、家庭からの連絡事項等をケース記録や申し送りノートに記入し、当日不在の職員にも伝達・共有できるようにしている。今後も継続する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	14	3	0	・当日の子どもの様子に加えて、個別支援計画を意識した記録作成を心がけている。日々のミーティングではその記録を参照し、活動プログラムや個別支援を検討している。 ・今年度は支援におけるPDCAサイクルを意識した記録様式に刷新した。また、権利擁護(主に身体拘束)に関する記録様式を新たに作成し、運用を開始した。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	15	2	0	・少なくとも半年に1回個別支援会議を開催し、職員全体で個別支援計画の支援内容や達成度、今後の課題について振り返りを行い、再計画の必要性について検討している。今後も継続する。 ・PDCAサイクルを可視化したモニタリング(評価)表を運用し、個別支援の質の向上に努めている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	11	6	0	・ガイドライン総則にある4つの基本活動を複数取り入れた支援を行っているが、ガイドラインに関する理解を深めたり、その内容を意識した支援展開ができるよう、年に1回は通読による再確認の機会を設けていく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	16	1	0	・児童発達支援管理責任者の出席を原則としているが、業務調整を行い、各担当者、機能訓練担当者も出席できるように努めている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	15	2	0	・例年、年度初めの各支援学校への訪問、学校主催の事業所連絡会出席などを通して、学校との連携体制構築に取り組んでいる(今年度は感染管理の観点より訪問は未実施)。次年度は当該年度の「利用のしおり」を各学校に配布予定。 ・学校への送迎時、子どもの様子や支援経過等について情報共有を行っており、今後も継続する。 ・地域の小・中学校は各校で対応も異なるため、それぞれの学校と連携のあり方について協議していくことが今後の課題。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	16	1	0	・医療的ケアが必要な子どもについて、主治医の指示書に基づいて適宜対応している。医療的ケアに関する書類を整備し、より密な保護者や医療機関との連携体制の構築に努めている。 ・現在、家族を介して医療機関と連携を取ることが多く、必要時には医療機関でのケア会議に出席し、主治医と連絡体制について協議するなど、引き続き体制整備に取り組んでいく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	13	4	0	・新規利用に伴い、相談支援事業所主催のサービス担当者会議へ出席し、これまでのかかわりのあった関係機関への情報収集を行っている。 ・サービス担当者会議に出席されない関係機関にも電話連絡にて情報収集するなど、新規受け入れに当たって子どもの理解を深めるよう努めている。

	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	14	3	0	・相談支援事業所主催のサービス担当者会議へ出席し、これまでの個別支援の経過や当事業所での本人の姿などについて、情報提供を行っている。今後も継続するとともに、必要に応じて利用終了後も情報提供を行うなど、各障害福祉サービス事業所等との連携を深めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	13	4	0	・発達障害者支援センター等主催の研修に積極的に参加している。また、事業所での研修の講師としても招聘している。 ・菊池圏域地域療育センター等とは学校でのケース会議にて支援方針等を検討するなどの連携を図っている。 ・熊本県の地域療育体制について全職員が理解し、困難事例等の個別ケースについても相談・助言が受けられるよう、専門機関との連携を図っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	14	3	0	・同法人内に放課後児童クラブや児童館があることもあり、主に長期休暇中の季節行事を通して、地域の子どもたちと交流する機会づくりを行っている。 ・今年度は感染拡大防止のために大きな行事は実施できなかったが、同じ地域で暮らす同世代の子どもたち同士の育ちあいを目的に、時折交流の機会を設定した。 ・次年度はこれらの取り組みをさらに充実化させ、地域福祉やソーシャルインクルージョンの推進に努めていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	7	8	2	・菊池圏域の協議会(子ども部会)に管理者や児童発達支援管理責任者を中心に出席している。 ・協議会にて検討されている地域課題やそれに対する地域の取り組みについて、全職員の共通理解に取り組んでいく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	15	2	0	・連絡帳や電話連絡、送迎時の面会など、日常的な家庭とのコミュニケーションを大切にして、子どもの状況や発達課題に関する共通理解ができるよう努めている。 ・事業所内での家族面談や家庭訪問も定期的を実施しており、今後も子育てや家族の育ちを支えていけるよう、家族支援体制を整えていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	11	5	1	・現在、活動プログラムの一環としてペアレント・トレーニングは行っていない。保護者へは日常的な関わりのほか、家族面談や家庭訪問を通して子どもへの対処方法等、子育てに関する助言や相談支援を行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	16	1	0	・新規契約時や障害福祉サービス報酬改正があったときなど、利用契約書や重要事項説明書に基づいて説明を行っている。 ・年度初めには「利用のしおり」を各家庭に配布し、利用にあたっての留意事項等について周知している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	15	2	0	・保護者へは日常的ななかかわりのなかで、子どもの様子や発達課題等について共通認識を図るとともに、子どもへの対処方法等、子育てに関する相談支援を行っている。 ・現在、定期的な家族面談や家庭訪問に取り組んでおり、今後も継続するとともに、適切な相談支援ができるよう、職員のスキルアップを目指していく。

	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	13	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、年1回の保護者会を開催しているが、今年度については感染拡大防止の観点より全体会は実施せず、規模を縮小して肢体不自由のある児童の家庭を対象とした保護者会を実施した(テーマ:「先輩ママのお話を聞こう(在宅ケアのための住環境整備について)」)。 ・次年度について、感染症の収束状況を踏まえた全体会の開催を検討するほか、保護者間の連携やつながりづくりを支える新たな仕組み(障がい種別、年代などテーマごとの小グループ開催)について模索していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・要望や苦情について、苦情受付担当者、苦情解決責任者を中心に適宜対応している。 ・その都度職員ミーティングにて対応を検討し、その内容を申し送りノートやヒヤリハットレポート等の書面に落とし、全職員が共通認識してその後の対応ができるよう情報共有を行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	16	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の「スペースアれんがだより」、運営母体である合志市社協の「ほっとライン」を、それぞれ毎月発行している。 ・「スペースアれんがだより」については子どもの様子や療育内容等、また「ほっとライン」については地域福祉に関する取り組み等の情報発信を行っている。次年度は紙面の内容や公式LINEアカウントを活用について検討し、広報活動の充実化を図っていく。
	35	個人情報に十分注意しているか	17	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人情報取扱い業務概要説明書」に基づいて家庭へ説明し、書面にて同意を得たうえで個人情報を管理している。 ・今年度はれんが安全管理委員会にて個人情報保護に関する研修を実施し、適切な個人情報の取り扱いに留意した日常業務の遂行につながっている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	16	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画について、児童用と保護者用との2種類を準備して、児童用には理解度に応じてルビを振ったり、使用する文言等を変更するなどして、合理的配慮に取り組んでいる。 ・理解しやすい書類や相談支援体制を整備するなど、今後も事業所としてアカウンタビリティを果たせるよう、取り組みを進めていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	13	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、毎月1～2回、定期的にボランティアの方に来ていただくほか、民生児童委員等を季節行事に招待するなど、地域に開かれた事業運営を行っている。 ・昨年度に引き続き、新型コロナ感染拡大防止のため、そのような交流の機会は減少しているが、子どもたちによるメッセージカードの配布など、可能な範囲で地域交流の機会を設定している。 ・2023年1月に『れんがのなかまたち展』を開催し、多くの地域住民にご参観いただいた。 ・運営主体が社会福祉協議会であり、社協内の他課とも連携した地域福祉推進の取り組みを継続する。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	15	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・各マニュアルを策定し、安心・安全に利用できるよう適宜対応している。職員研修等にて事業所内周知を図るほか、各委員会活動において内容の見直しや改訂を行っている。 ・感染管理に関する取り組みや緊急事態発生時など、公式LINEアカウントを活用してタイムリーに情報発信し、家庭との連携を図っている。 ・情報開示に関して、保護者等が自由に閲覧できるよう、各種マニュアルも含まれた『合志市社協「スペースアれんが」について』といったファイルを整備している。

39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	16	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・れんが災害対策委員会が中心となり、年2回の避難・防災訓練、年1回の不審者対応訓練を実施した。また、合志市社協消防計画、合志市社協事業継続計画(BCP)についても整備済み。 ・今年度は不審者対応に関する職員研修を実施し、防犯対策として防犯カメラや防犯チャイムを設置した。
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	16	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の入職時に虐待防止に関する研修を行うほか、年1回全職員対象に同様の研修を開催し、権利擁護に関する意識向上に取り組んでいる。 ・れんが権利擁護委員会が中心となり、虐待防止や適切な身体拘束のあり方についての取り組みを検討している。今後も継続する。
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	15	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・多動・衝動性の強い子ども、パニック等による自傷他傷の可能性のある子ども等に対して、個別支援計画のなかで、身体拘束等の適正化に関する内容を記載し、保護者の同意を得たうえで個別対応を行っている。 ・今年度は主に身体拘束に関する知識修得を目的に、れんが権利擁護委員会主催による職員研修を実施した。今年度は身体拘束に関する記録様式を新たに作成し、運用を開始した。次年度はその記録に基づく支援の検証、強度行動障害や意思決定支援の強化に取り組んでいく。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	15	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を中心に家庭よりアレルギーに関して情報収集し、その内容を管理栄養士等の他職種も共有しながら、食事やおやつを提供している。 ・現在、家庭へ病院等での検査結果、医師の指示書(学校用)の提出を依頼し、それに基づいた危機管理対応を行っている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	15	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のミーティングにおいて、小さな事例でも意見にしたり、記録に落とすことの徹底を通して、職員の意識向上を図っている。 ・れんが安全管理委員会や事業所内安全管理チームがイニシアチブを取り、レポートや報告書を踏まえてヒヤリハットや事故の再発防止に向けた取り組みを検討している。全職員がそれを情報共有できるよう、今後も取り組みを継続する。